

## ➤ 計画の役割

- 宮城県環境基本計画は、環境基本条例（平成7年宮城県条例第16号）に基づき、良好な環境の保全と創造に関する総合的かつ長期的な目標及び施策の大綱を定めるもの。
- 「新・宮城の将来ビジョン」における環境分野の個別計画として位置づけられている。

## ➤ 計画の将来像

### 豊かで美しい自然とともに、健やかで快適な暮らしが次世代へ受け継がれる県土

- 私たちの生活は自然環境を礎とした生態系の中で成り立っており、地球温暖化などの気候変動をはじめとする環境課題に取り組むことが重要です。
- 自然災害への耐性や回復力を備えた、強くしなやかな社会を形成するとともに、豊かで美しい自然と共生した、将来にわたり安心して快適に暮らせる県土を目指します。

### 持続可能な社会の実現に向けてすべての主体が行動する地域社会

- 日常生活や事業活動によって生じる環境への負荷を抑制することが、持続可能な社会の実現のために不可欠です
- 2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロとする目標を掲げ、県民、事業者、民間団体及び行政など地域社会を構成する全ての主体が、省エネルギー、省資源、自然環境への配慮などに「自分ごと」として取り組み、一人一人が着実に行動する地域社会の形成を目指します。

## ➤ 計画期間

令和3～12年度（10年間）

# 環境基本計画に連なる個別計画

政 策	個別計画	目 的
1 脱炭素社会の構築	①宮城県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）	➤ 脱炭素社会の実現に向けて、県域全体からの温室効果ガスの排出量抑制及び気候変動適応を推進
	 ②再生可能エネルギー・省エネルギー計画	➤ 脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギー等の導入及び省エネルギーを促進
2 循環型社会の形成	③宮城県循環型社会形成推進計画	➤ 循環型社会の実現に向けて、廃棄物等の3Rと適正処理を推進
3 自然共生社会の形成	④宮城県自然環境保全基本方針	➤ 人と自然の共生を目指し、長期的展望に立った自然環境保全施策を推進
	⑤宮城県生物多様性地域戦略	➤ 県の生物多様性の保全及び持続可能な利用
4 安全で良好な生活環境の確保	⑥宮城県水循環保全基本計画	➤ 健全な水循環を保全
	⑦宮城県自動車交通環境負荷低減計画	➤ 自動車交通に伴う環境負荷を低減

# 宮城県環境基本計画（第4期）の進捗状況

17の管理指標（令和5年度実績）

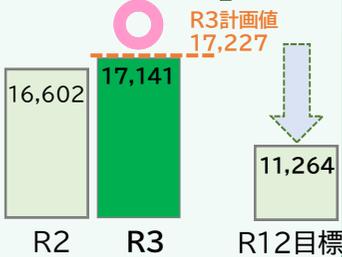
○ 7 ▲ 5 ✕ 5

目標達成 目標未達成だが改善 目標未達成かつ後退

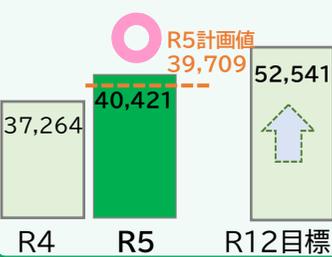
令和5年度実績がまだ算出できない指標については、算出可能な最新年度の実績

## 政策1 脱炭素社会の構築

(1) 県内の温室効果ガス排出量(千t-CO<sub>2</sub>) ※



(2) 再生可能エネルギー導入量(TJ) ※



※(1)(2)はみやぎゼロカーボンチャレンジ2050戦略策定後の新指標で評価

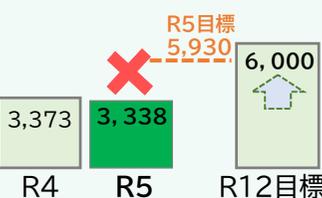
## 政策3 自然共生社会の形成

(9) 豊かな生態系(森林・農地・水辺環境の保全)



管理指標(9)(15)(16)(17)は、関連する複数の指標を基に10点満点で評価するもの

(10) 森林整備面積(ha/年)



(11) 農村環境保全等の協働活動に参加した人数(累計)

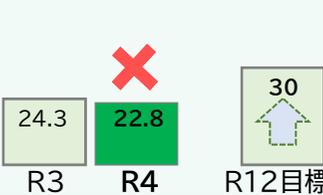


## 政策2 循環型社会の形成

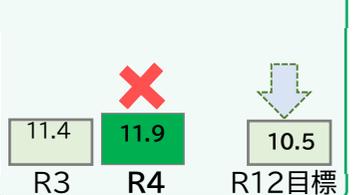
(3) 県民1人1日当たりの一般廃棄物排出量(g/人・日)



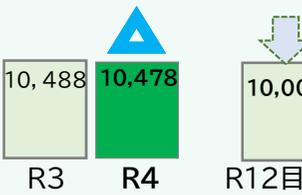
(4) 一般廃棄物リサイクル率(%)



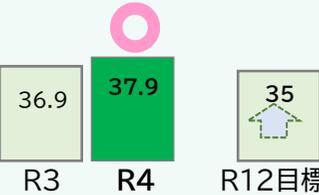
(5) 一般廃棄物最終処分率(%)



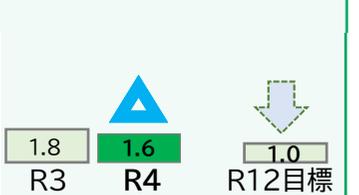
(6) 産業廃棄物排出量(千t)



(7) 産業廃棄物リサイクル率(%)

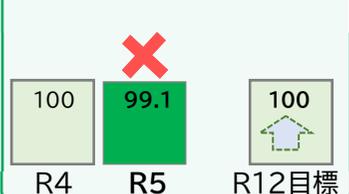


(8) 産業廃棄物最終処分率(%)

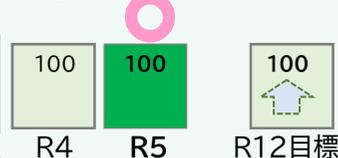


## 政策4 安全で良好な生活環境の確保

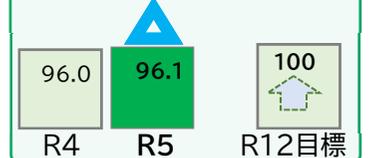
(12) 大気汚染に係る環境基準達成率(%)



(13) 大気中揮発性有機化合物の環境基準達成率(%)



(14) 道路に面する地域における自動車交通騒音の環境基準達成率(%)



(15) 清らかな流れ(水質環境基準の達成度)



(16) 豊かな流れ(河川流量の豊かさ)



(17) 安全な流れ(河川・海岸整備率の向上)



管理指標1

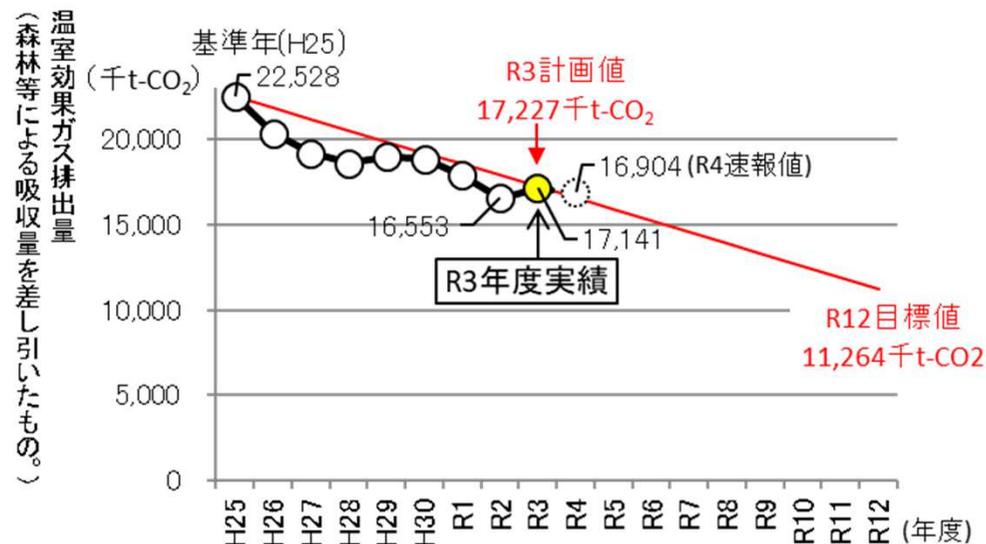
県内の温室効果ガス排出量（千t-CO<sub>2</sub>）

指標の概要

県内で1年間に排出される温室効果ガスの総量（森林による吸収量を差し引いたもの）

実績

最新実績	令和3年度 17,141 千t-CO <sub>2</sub> 【計画値(令和3年度)17,227千t-CO <sub>2</sub> 】
前年実績	令和2年度 16,553 千t-CO <sub>2</sub>
達成状況	○ 当該年度計画値を達成 前年度比 +3.6%



評価と方向性について

- 令和5年3月に策定した「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050戦略」において、令和12年度の二酸化炭素排出量を平成25年度比50%削減とする目標を設定している。
- 排出量は、平成25年度から減少傾向で推移しているところ、令和3年度の排出量については、計画値17,227千トン-CO<sub>2</sub>に対して17,141千トン-CO<sub>2</sub>、前年度比+3.6%、基準年度比-23.9%の排出量削減となった。
- 排出量が前年度より増加した要因としては、産業部門、業務部門の排出量が令和元年度の水準まで増加していることから、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う社会経済活動の縮小が緩和されたためであると考えられる。なお、両部門の排出量は、令和4年度（速報値）においても同様の水準で推移している。
- 目標達成に向けては、「みやぎゼロカーボンチャレンジ2050戦略」（令和5年3月策定）に基づき、建築物の省エネルギー化や事業所を対象とした大容量の自家消費型再生可能エネルギー導入の促進に注力するほか、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」の長期目標の実現を見据え、水素、地熱等の活用促進に取り組む。

管理指標2

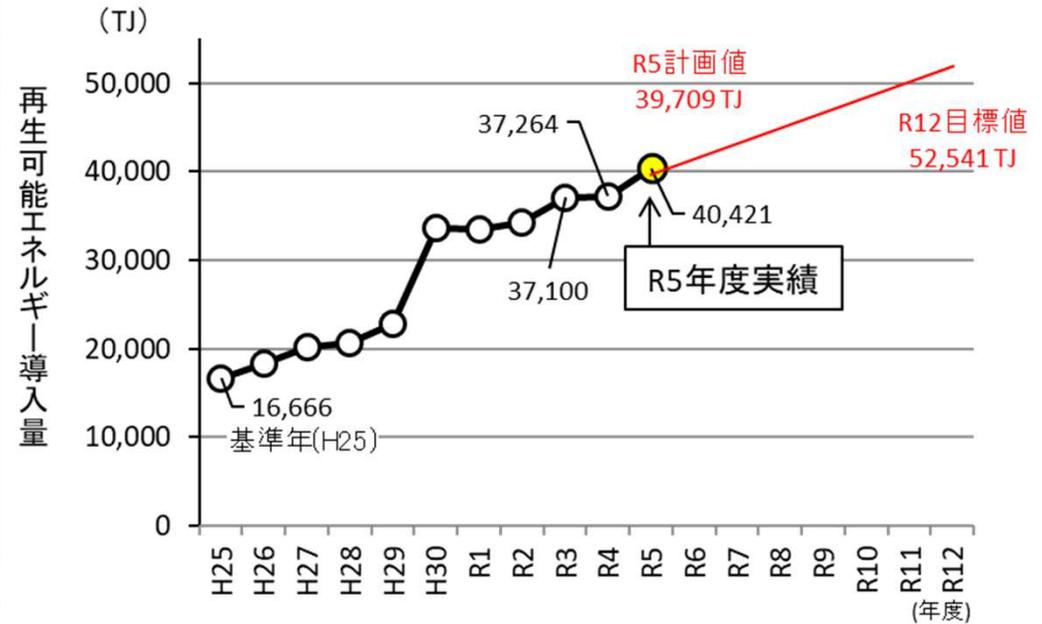
再生可能エネルギー導入量（TJ）

指標の概要

県内で1年間に導入された再生可能エネルギーの総量（熱量換算。）

実績

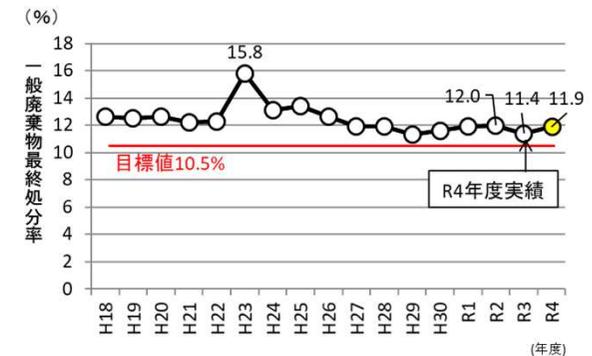
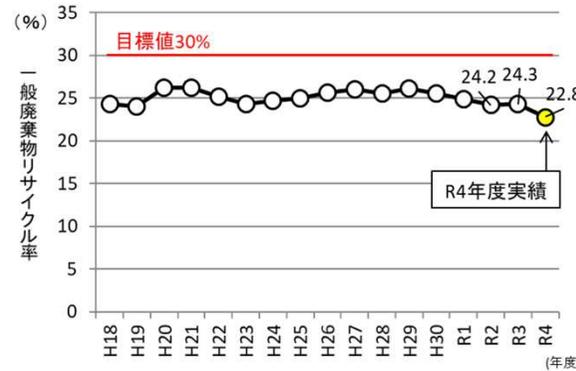
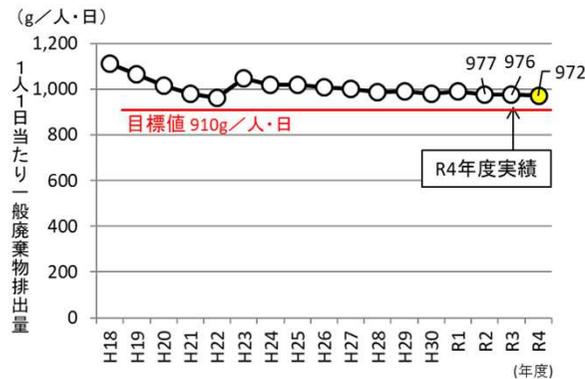
最新実績	令和5年度 40,421 TJ 【計画値(令和5年度) 39,709 TJ】
前年実績	令和4年度 37,264 TJ
達成状況	○ 目標達成 前年度比+8.5%



評価と方向性について

- 令和5年度の再生可能エネルギー導入量は40,421 TJで、前年度から8.5%増加した。
- 再生可能エネルギー導入量のうち、電気利用はバイオマス発電の増加（前年度比39.8%増）が大きく寄与したため、前年度から14.6%増加した。
- 再生可能エネルギー導入量のうち、熱利用は前年度から3.0%減少し、計画値（令和5年度）に1.4%届いていない。
- エネルギーの多様化という観点から、エネルギー種別ごとの進捗状況を注視し、必要な施策を検討していく。

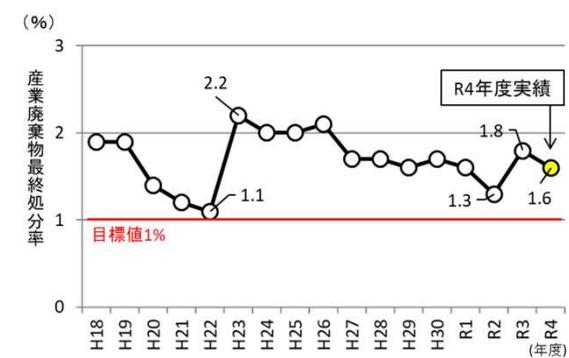
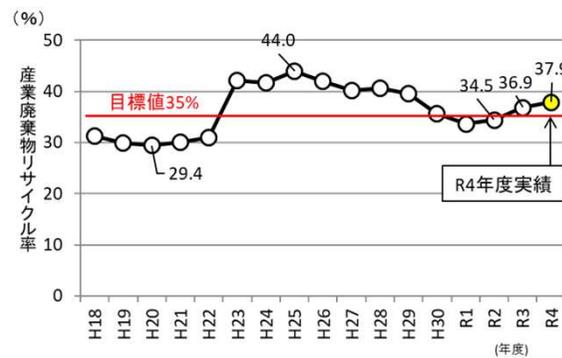
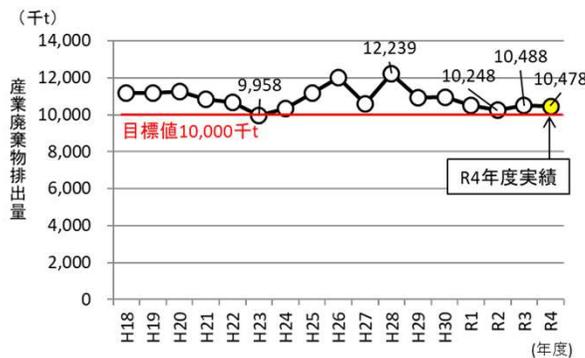
管理指標3		管理指標4		管理指標5	
県民1人1日当たりの一般廃棄物排出量 (g/人・日)		一般廃棄物リサイクル率 (%)		一般廃棄物最終処分量 (%)	
指標の概要		指標の概要		指標の概要	
県民1人1日当たりの一般廃棄物排出量		県内の一般廃棄物リサイクル率		県内の一般廃棄物最終処分量	
実績		実績		実績	
最新実績	令和4年度 972 g/人・日 【目標値 (令和12年度) 910 g/人・日】	最新実績	令和4年度 22.8% 【目標値 (令和12年度) 30%】	最新実績	令和4年度 11.9% 【目標値 (令和12年度) 10.5%】
前年実績	令和3年度 976 g/人・日	前年実績	令和3年度 24.3%	前年実績	令和3年度 11.4%
達成状況	△ 目標未達成だが改善 前年度比-0.4%	達成状況	× 目標未達成かつ後退 前年度比-1.5ポイント	達成状況	× 目標未達成かつ後退 前年度比+0.5ポイント



### 評価と方向性について

- 令和4年度の県民1人1日当たり一般廃棄物排出量は972gで前年度から0.4%改善、リサイクル率は22.8%で1.5ポイント後退、最終処分量は11.9%で0.5ポイント後退した。
- 一般廃棄物排出量はコロナ禍の影響が大きい令和2、3年度と比較して生活系ごみが減少したため全体では減少したが、社会経済活動が通常に戻りつつある中で事業系ごみが増加し、最終処分量の上昇に影響した可能性がある。
- 一般廃棄物リサイクル率の後退は、一般廃棄物の組成において紙・布類の割合が上昇したことが影響したと考えられる。
- 「宮城県循環型社会形成推進計画（第3期）」に基づき、プラスチックごみ対策や食品ロス削減など新たな課題に対応しながら、引き続き市町村等と連携した普及啓発などにより一層の3Rの取組の推進を図っていく。
- 「宮城県食品ロス削減推進計画」に基づき、食品ロス削減のための施策を推進していく。

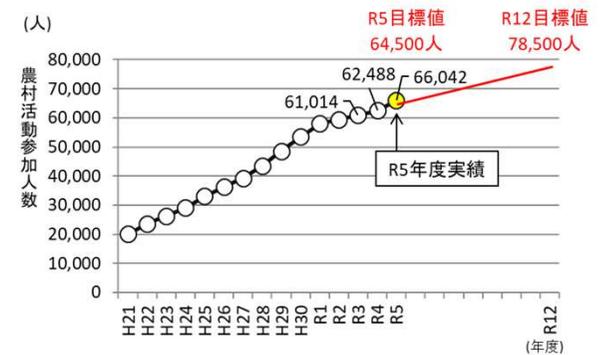
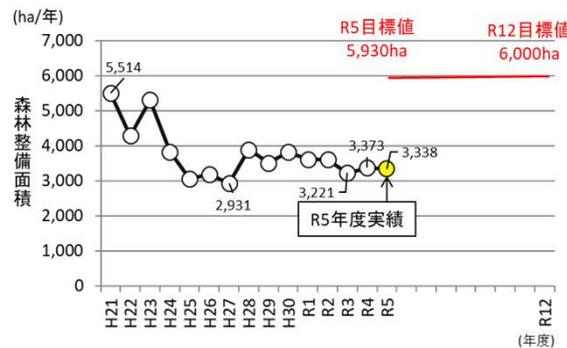
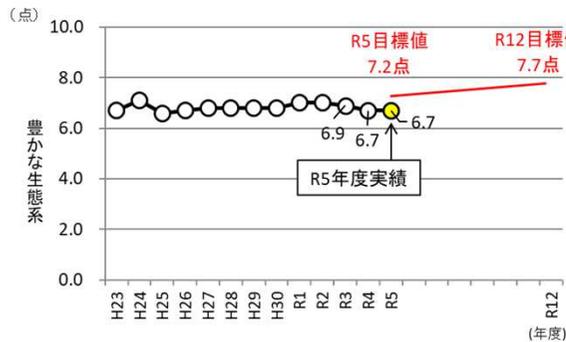
管理指標6		管理指標7		管理指標8	
産業廃棄物排出量（千t）		産業廃棄物リサイクル率（%）		産業廃棄物最終処分量（%）	
指標の概要		指標の概要		指標の概要	
県内の産業廃棄物排出量		県内の産業廃棄物リサイクル率		県内の産業廃棄物最終処分量	
実績		実績		実績	
最新実績	令和4年度 10,478千t 【目標値（令和12年度）10,000千t】	最新実績	令和4年度 37.9% 【目標値（令和12年度）35%】	最新実績	令和4年度 1.6% 【目標値（令和12年度）1.0%】
前年実績	令和3年度 10,488千t	前年実績	令和3年度 36.9%	前年実績	令和3年度 1.8%
達成状況	△ 目標未達成だが改善 前年度比-0.1%	達成状況	○ 目標達成 前年度比+1.0ポイント	達成状況	△ 目標未達成だが改善 前年度比-0.2ポイント



### 評価と方向性について

- 令和4年度の産業廃棄物排出量は10,478千tで前年度から0.1%改善、リサイクル率は37.9%で1.0ポイント改善、最終処分量は1.6%で0.2ポイント改善し、リサイクル率は目標を達成したほか、その他2指標も目標達成に向けて概ね順調に推移している。
- 排出量については、東日本大震災の復旧・復興事業等により増加した後、平成28年度をピークに減少傾向に転じている。
- リサイクル率については、復旧・復興事業の落ち着きから、比較的にリサイクル率の高いがれき類の排出量が減少したため、減少傾向にあったが、近年は改善している。
- 製造業をはじめ、産業活動の活発化に伴い、廃プラスチック等の排出量が増加するなど、産業廃棄物の排出量と種類構成に変化が起きており、これまで以上に排出事業者への排出量削減対策の推進と適正処理に向けた指導等が必要となる。
- 令和3年3月策定した「宮城県循環型社会形成推進計画（第3期）」に基づき、プラスチックごみ対策や食品ロス削減など新たな課題に対応するため、産業廃棄物の3Rに取り組む事業者への支援等により、3Rの推進を図っていく。

管理指標9		管理指標10		管理指標11	
豊かな生態系（森林・農地・水辺環境の保全）		森林整備面積（ha/年）		農村環境保全等の協働活動に参加した人数	
指標の概要		指標の概要		指標の概要	
県内の動植物の自然性について、「植物環境指標」と「河川生物生息環境指標」を基に、10点満点で評価した指標		県内の民有林における年間森林整備面積（「間伐面積」と「植栽面積」の合計）		里地里山の自然環境保全や、自然とのふれあいの場としての活用を目指して実施された、地域や学校と連携した農村環境保全等の協働活動に参加した人数（累計）	
実績		実績		実績	
最新実績	令和5年度6.7点 【目標値（令和5年度） 7.2点】	最新実績	令和5年度 3,338 ha/年 【目標値(令和5年度) 5,930ha/年】	最新実績	令和5年度 66,042人 【目標値(令和5年度) 64,500人】
前年実績	令和4年度 6.7点	前年実績	令和4年度 3,373 ha/年	前年実績	令和4年度 62,488人
達成状況	× 目標未達成 前年度比±0.0ポイント	達成状況	× 目標未達成かつ後退 前年度比-1.0%	達成状況	○ 目標達成 前年度比+5.7%



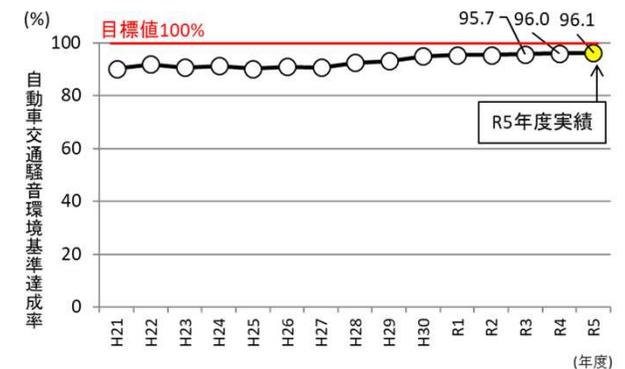
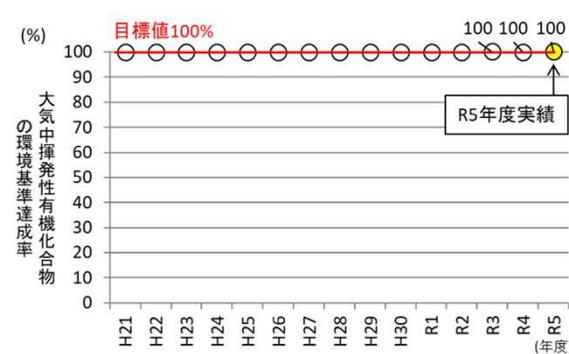
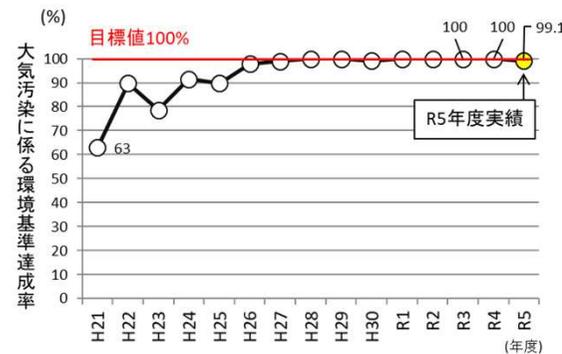
### 評価と方向性について

- 「豊かな生態系」の令和5年度実績は6.7点で、目標値に近いところで横ばいで推移している。
- 「森林整備面積」の令和5年度実績は3,338ha/年で、前年度から1.0%の減となった。内訳をみると、植栽は19ha減（6%減）、間伐は16ha減（0.5%減）となっている。今後も森林の持つ多面的機能を維持するため、引き続き再生林による森林の若返りや、施業の集約化等による低コストの間伐の推進に取り組んでいく。
- 「農村環境保全等の協働活動に参加した人数」については、新型コロナウイルスの影響で中止となっていたイベントの再開等により参加人数が増加し、目標値を達成した。今後も参加人数の増に向け、引き続き地域イベントを継続することで協働活動の取組を支援していく。
- 自然公園や県自然環境保全地域等を設定することで県土の重要な自然環境の保全に努める。また、野生鳥獣の安定した生息環境の確保及び野生鳥獣の適正管理を進める。さらに、世界的に取り組が進められている生物多様性の損失を止め、回復軌道にのせる「ネイチャーポジティブ」を本県でも推進するため、個別計画を改訂し、令和7年度から関係施策との連携や企業・県民への普及啓発を強化する。

## 政策4 安全で良好な生活環境の確保

## 個別計画：宮城県自動車交通環境負荷低減計画

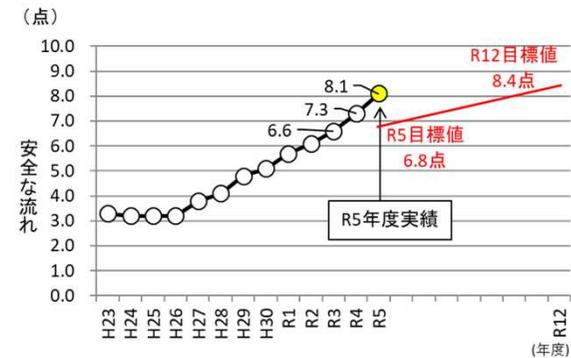
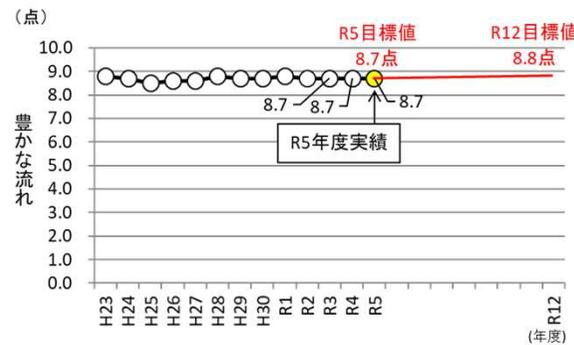
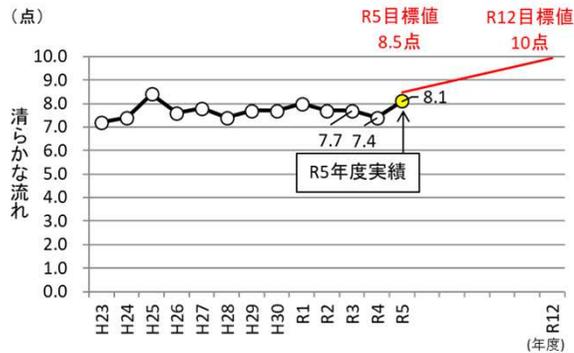
管理指標12		管理指標13		管理指標14	
大気汚染に係る環境基準達成率 (%)		大気中揮発性有機化合物の環境基準達成率 (%)		道路に面する地域における自動車交通騒音の環境基準達成率 (%)	
指標の概要		指標の概要		指標の概要	
県内の一般環境大気測定局及び自動車排出ガス測定局における大気汚染に係る環境基準達成状況（二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、微小粒子状物質）		光化学オキシダントの発生原因の一部である揮発性有機化合物（ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン）の県内における環境基準達成状況		道路に面する地域における自動車交通騒音の環境基準の達成状況	
実績		実績		実績	
最新実績	令和5年度 99.1% 【目標値（令和12年度）100%】	最新実績	令和5年度 100% 【目標値（令和12年度）100%】	最新実績	令和5年度 96.1% 【目標値（令和12年度）100%】
前年実績	令和4年度 100%	前年実績	令和4年度 100%	前年実績	令和4年度 96.0%
達成状況	× 目標未達成かつ後退 前年度比-0.9ポイント	達成状況	○ 目標達成 前年度比±0ポイント	達成状況	△ 目標未達成だが改善 前年度比+0.1ポイント



### 評価と方向性について

- 「大気汚染に係る環境基準達成率」は99.1%と、前年度から0.9ポイント後退し、「大気中揮発性有機化合物の環境基準達成率」は、前年度同様100%を達成した。
- 「道路に面する地域の自動車交通騒音の環境基準達成率」は96.1%で、前年度から0.1ポイント改善した。
- 令和3年3月に策定した「宮城県自動車交通環境負荷低減計画（第3期）」に基づき、各種施策を総合的かつ効果的に推進し、県民・事業者が一体となって自動車交通環境負荷低減に取り組むよう促していく。

管理指標15		管理指標16		管理指標17	
清らかな流れ（水質環境基準の達成度）		豊かな流れ（河川流量の豊かさ）		安全な流れ（河川・海岸整備率の向上）	
指標の概要		指標の概要		指標の概要	
県内の公共用水域における水質（生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、全窒素、全磷）の環境基準達成状況		県内の河川流量の豊かさについて、「地下水涵養指標」と「河川正常流量達成度」を基に、10点満点で評価した指標		県内における洪水や高潮・津波等に対する堤防等の整備について、「河川整備指標」と「海岸整備指標」を基に、10点満点で評価した指標	
実績		実績		実績	
最新実績	令和5年度 8.1点 【目標値（令和5年度）8.5点】	最新実績	令和5年度 8.7点 【目標値（令和5年度）8.7点】	最新実績	令和5年度 8.1点 【目標値（令和5年度）6.8点】
前年実績	令和4年度 7.4点	前年実績	令和4年度 8.7点	前年実績	令和4年度 7.3点
達成状況	△ 目標未達成だが改善 前年度比+0.7ポイント	達成状況	○ 目標達成 前年度比±0ポイント	達成状況	○ 目標達成 前年度比 +0.8ポイント



評価と方向性について

- 「清らかな流れ」としての水質環境基準の達成度は8.1点で、近年は目標未達成であるが、概ね横ばいとなっている。
- 「豊かな流れ」としての平常時の河川流量の豊かさは8.7点で、近年は目標を達成している。
- 「安全な流れ」としての河川・海岸整備率の向上については8.1点で、目標を達成した。東日本大震災に伴う海岸整備率の向上により順調に推移している。
- 計画の実効性を高めるため、身近な地域環境に対する県民の関心を喚起し、NPO法人等を核とする地域連携活動の仕組みづくりを継続して支援する等、取組を進める必要がある。
- 令和3年3月に策定した「宮城県水循環保全基本計画（第2期）」に基づき、流域における健全な水循環の保全に関する施策の効果的な推進を図るため、県内を大きく5つの流域に分け、流域毎の水循環計画を定めている。鳴瀬川流域の計画（第2期）を平成31年3月に策定、北上川流域及び名取川流域の計画（第2期）を令和3年3月に策定、南三陸海岸及び阿武隈川流域の水循環計画（第1期）を令和4年3月に策定し、これらの計画に基づき、健全な水循環の保全の取組を推進していく。

## 〔参考〕生態系・水質関連指標について

### 管理指標 9

#### 豊かな生態系（森林・農地・水辺環境の保全）

##### 指標の概要

県内の動植物の自然性について、「植物環境指標」と「河川生物生息環境指標」を基に、10点満点で評価した指標

流域内の生態系のバランスについて、自然性を定量化した「植物環境指標」と代表河川の生息種多様性を示す「河川生物生息環境指標」から算出。すべての地域で自然豊かな森林を形成し、かつ、河川に生息する指標種及び重要種が継続的に確認された場合10点となる。

### 管理指標 15

#### 清らかな流れ（水質環境基準の達成度）

##### 指標の概要

県内の公共用水域における水質（生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、全窒素、全燐）の環境基準達成状況

水質環境基準点におけるBOD、COD、全窒素及び全リンに係る水質環境基準達成度を総合的に表す指標で、すべての測定地点で達成した場合に10点となる

### 管理指標 16

#### 豊かな流れ（河川流量の豊かさ）

##### 指標の概要

県内の河川流量の豊かさについて、「地下水涵養指標」と「河川正常流量達成度」を基に、10点満点で評価した指標

地下水涵養量（森林の流出係数との乖離で表現）と河川正常流量（流水の正常な機能を維持するために必要な流量）を基に表す指標で、全ての地域において森林程度の涵養量があり、河川において必要流量が年間を通して確保されている場合に10点となる。

### 管理指標 17

#### 安全な流れ（河川・海岸整備率の向上）

##### 指標の概要

県内における洪水や高潮・津波等に対する堤防等の整備について、「河川整備指標」と「海岸整備指標」を基に、10点満点で評価した指標

洪水や高潮・津波等による災害が起きにくいかどうかを評価するもの。河川及び海岸の整備状況を指標としており、整備済み延長を流域ごとに集計し、計画延長合計に対する比率を算出している。河川及び海岸整備が必要な全ての区間において達成された場合に10点となる。